

響きあい Vol.9

令和元年 10月
秋号

みんなの「生きる」を
社会福祉法人



老人福祉施設カリヨンの郷
施設長 早川直也

いろいろな場面での 「モノサシ」について

この「モノサシ」の長さや基準は、個人個人の場面などで多少、伸びたり、縮んだりするものの、個々の職業や、環境によっても変わります。

商売をしている人は、「モノサシ」の主たるものは、金銭になるでしょうし、経済に関心がある人も同様でしょう。

また、時間に追われている人では、時間が「モノサシ」の基準になり、またその複合の場合もあります。

◇ ◇ ◇

特に、福祉に関わる人たちは、この「モノサシ」の中心になるものとして、対人援助に対する活動のうち、感謝の言葉やその表情などが「モノサシ」の基準になると考えられます。このことが「働き甲斐」になり「仕事に対する達成感」に連結するものと思われ、福祉に携わる者の醍醐味といえます。

す。会社等の営業担当などは数値目標を掲げ、その目標数字の達成がやりがいになっていると思います。

ただし、数字目標は常に際限なく繰り返され、エンドレスであり目標になって常に数字に追われることになりません。

その点では、福祉に携わる者はほんのささいな取り組みがタイムリーにレスポンス良く相手から反応があり、正に、この点が仕事への「やりがいや生きがい」になっています。

◇ ◇ ◇

昭和時代の人間はこれらのことを考える余裕も無く「モノ」や情報も少なく、不自由な状況の中で、ただだがむしやりに働き、個人の判断でそれぞれの矜持と気概（心意気）でもって、多くの難題を乗り越えてきました。

昨今、指示待ちの若者が多い中、昭和を生きた我々の諸先輩方は、自己判断と自己責任でもって粛々と仕事をこなし、それらを極めた方たちには改めて頭が下がります。

